

清朝末期から中華民国初期（1904 - 1936 年）における  
大学スポーツ連盟の成立過程に関する研究  
—華東地区を中心に—

スポーツ文化研究領域

5016A047-3 李 声民

研究指導教員：友添 秀則 教授

<本研究の目的と背景>

中国の清朝末期から、欧米の商人や宣教師は、交通の便が良く、人口密度の高い港湾都市が集まっている華東地区に多く集まった。20世紀初頭には、教会学校で大学教育が展開されるようになり、徐々に大学になっていった。そして、教会大学では、外国人教員が多かったため、外来文化が中国に持ち込まれ、スポーツも教育と同時に行われるようになった。

このように、華東地区においてスポーツは、まず沿岸各地の教会学校に導入され、続いて他の教会学校でも始められるようになった。それだけでなく、大学スポーツ連盟等、様々な体育団体が設立されたという（笹島，1987，p. 148）。

つまり、清朝末期は、中国において大学でスポーツが始められただけでなく、大学が中心となってスポーツ組織を設立させていた時期だったのである。しかし、当時の大学スポーツ連盟は、大学間の対立や五・三〇事件などの影響で、30年も経たないまま消失してしまった。とはいえ、清朝末期から中華民国初期にかけての中国における大学スポーツ連盟の成立過程を明らかにする作業は、中国におけるスポーツの受容の実態を詳らかにしていく上で重要な課題となるであろう。

しかしながら、これまでの研究では、華東地区における大学スポーツ連盟の成立過程を直接的な研究課題として探究した研究はほとんどみられない。そこで、本研究では、中国の大学スポーツ連盟の源にさかのぼって、華東地区を中心に、大学スポーツ連盟の成立経緯、組織状況の検討を通して、清朝末期から中華民国初期（1904 - 1936 年）における大学スポーツの組織化の状況を明らかにすることを目的とした。

<各章の概要>

○第1章

第1章では、華東地区における教会学校の成立過程と教会大学の教員および学生の出自と欧米化したカリキュラムの概要を明らかにした。

1870年以降、教会における中等教育制度の確立が始まり、プロテスタント系の教会学校が多数設立された。また、当時の中国でスポーツがもっとも盛んに行われていた場所は華東地区の教会大学であったが、教会大学での目的はスポーツ選手を養成することではなく、宣教であった。しかし、多くの学校には、スター選手が存在し、新聞、雑誌などメディアに取り上げられる機会が多かったため、教会大学の関心と支援が得られたことが明らかになった。そして、教会大学で活躍し、宣教のために欧米から来た教員および教会大学全体の学生の出自と欧米化したカリキュラムの概要を明らかにした。具体的には、セント・ジョンズの事例から、教会大学のカリキュラムは、欧米の影響を多分に受けたもので、国語課程が軽視される傾向があったことが確認された。さらに、華東地区の教会大学では、課程内で学ぶだけではなく、様々なサークルを設立し、活動を展開していた。以上より、教会大学は、非常にスポーツが受け入れやすい環境を作ったことを明らかにした。

○第2章

第2章では、華東地区におけるスポーツの導入および大学生の国内外競技会への出場状況を明らかにした。

スポーツとしての陸上競技が中国に導入したのは、1890年に教会学校のアメリカ人の李藹門教員によってであった。また、1891年中国では上海のセント・ジ

ジョンズとイギリスの工部局西童男校が中国において、もっとも早い野球の試合が行われていた。また、「東華六大学連合運動会」が1915年に競技種目に野球を採り入れ、定期的に行われていたことから、野球が中国に定着したことが推察された。さらに、サッカーの中国への導入については、確実な資料が見つからず、断定することが難しいが、1890年代ごろイギリス人によって導入されたと推察される。続いて、バスケットボールは、1895年12月08日、天津YMCAのライアンより導入され、翌年度、正式な試合が行なわれ、中国に定着した。また、華東地区においては、1908年頃、宣教のためにアメリカから来たYMCA体育主事であるエクスナーが上海でバスケットボールの普及に努力したことが明らかになった。最後に、華東地区におけるテニスの導入は、1892年にセント・ジョンズの学生が毎日午後からテニスの練習が行っていたことにある。そして、教会学校とYMCAから中国（中華民国）代表選手が輩出されていた。華東地区の大学生が極東選手権競技大会で活躍したこと、当時の中国の大学スポーツの競技力は全国のトップクラスにあったこと、特に華東地区の大学スポーツの競技力が高かったことが明らかになった。

### ○第3章

第3章では、華東地区を中心とした、清朝末期から中華民国初期の高等教育機関におけるスポーツ連盟の成立過程を明らかにした。

中華大学体育連合会の名称の由来に対する検討を通して、1904年に華東地区の主要な大学はその重要性を認識し、セント・ジョンズ、東呉大学、中西書院、南洋などの4大学から4名の代表が、セント・ジョンズで「中華大学体育連合会」を設立したことが明らかになった。また、「中華大学体育連合会」が主に陸上競技会を開催し、1909年頃、大学間の同盟関係が不安定で、学校の学生数が減少したことによって、試合に出場できる学生も少なくなったため、「中華大学体育連合会」が解散したことが明らかになった。また、1914年5月には、「中華大学体育連合会」の復活を目論み、蘇州の東呉大学の提案に基づき、「東華六大学体育連合運

動会」が結成されたことが明らかになった。さらに、五四運動と文化運動の変革の影響で、スポーツが中国での発展を促進するだけでなく、「華東八大学体育連合会」の誕生にきっかけになった。また、セント・ジョンズの外国人教員が中国の国旗を侮辱したため、南洋の脱退とセント・ジョンズの1年間の活動停止によって、「華東八大学体育連合会」が分裂したことが明らかになった。最後に、「華東八大学体育連合会」の分裂後、各大学がスポーツ交流を継続していくため、元「華東八大学体育連合会」メンバーである滬江大学、金陵大学、東呉大学、セント・ジョンズなどの教会大学は、1928年に「四大学体育会」を設立させた。また、「華東八大学体育連合会」の元メンバーであった南洋、復旦大学と光華大学が1926年から「江南大学体育協会」に発足し、1936年までに、11回の大会が開催されたことが明らかになった。

### <結章>

結章では、第1章から第3章までで明らかになったことから以上のような結論を導きだした。

まず、1904年に大学のスポーツクラブ間の連絡調整、管理などの運営支援を行う「中華大学体育連合会」が組織され、中国におけるこれ以降の大学スポーツ組織の基盤となった。

つぎに、1920年に成立された「華東八大学スポーツ連盟」では、章程と試合細則などが定められ、厳密な組織系統が整えられ、特に球技種目の試合はシーズン制になっており、現代球技スポーツ連盟の形になっていた。

最後に、大学スポーツ連盟は、種目が多いにもかかわらず、会長、役員などが統一で、各種目を管理し、各大学の間横の繋がり、他種目との繋がりなどが深いといえる。

### <引用・参考文献>

笹島恒輔（1987）中国の体育・スポーツ史。ベーススポーツ・マガジン社：東京。